

10/1 園児たちが募金を呼びかけ

赤い羽根共同募金 街頭募金

鶴田町共同募金委員会は町内で赤い羽根共同募金の街頭募金を始めました。同会の呼びかけで、町内のこども園の園児たちも街頭募金に初めて参加し、町内のスーパーマーケットなどで募金活動を行いました。

マエダストア鶴田店では、こども園はやせの園児16人が店舗前で、小さな募金箱を手に「募金をお願いします」と元気な声で、募金への協力をお願いしていました。園児たちは募金をしてもらうと「ありがとうございます」とお礼をいいながら、赤い羽根の形をしたシールを手渡していました。



募金者に赤い羽根シールを渡す園児



講師の説明に耳を傾ける参加者

10/7 事業承継・経営改善の知識を深める

地域合同セミナー・経営相談会

町と町商工会では、事業承継や経営改善等の取組を検討する事業者を対象とした「地域合同セミナー・経営相談会」を「TSURUTA LABO」で開催しました。

セミナーには町内の事業者ら約20人が参加。(公財)21 あおもり産業総合支援センター等の各機関が講師を務め、本県の現状や支援内容を紹介しました。参加者からは「事業承継について学ぶことができてよかった」などの感想が寄せられました。

今回参加できなかった方でも、個別相談を承っております。役場商工観光課または町商工会までお気軽にお問合せください。

10/6 はげの頂点決める!! 十五夜決戦

ツル多はげます会 中秋の有多毛

中秋の名月にあたる6日夜、NP0法人ツル多はげます会の秋の例会「中秋の有多毛」が開かれ、県内外から光り輝く頭を持った23人の会員が集結しました。

会場では、パネルの穴から出たはげ頭を誰のものか当てる「名月当てクイズ」が行われ、解答者たちは誰のはげ頭かじっくりと見定めていました。

はげます会名物の「吸盤綱引き」では、この日のために磨き上げてきた自慢の頭に吸盤を貼り付け、熱戦を繰り広げていました。戦いが終わった参加者の頭には吸盤の跡が赤く残っていました。

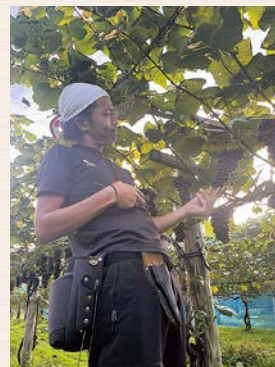


熱い戦いが繰り広げられた吸盤綱引き



みなさんこんにちは。11月ということもあり寒くなってきましたね。ついこの前まで花粉で鼻水が止まらなかったのに今は寒さで鼻水が止まらない日々です。さてさて、畑の状況ですが無事にスチューベン収穫が終わりまして選果作業に入りました。ただ、この作業は同じことを延々に繰り返す作業なので根気が要ります。みなさんブドウがお金に見えてくると聞きますが、今のところはまだブドウにしか見えないので農家になるんだという意識を保つつつ、飽きらがささないで向き合っていきます。

それと、近頃クマの出没が相次いでいるというニュースをよく見ます。これからの剪定や冬じまい作業などあると思いますが、安全第一・クマ注意で行動していただけたらと思います。



地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を「地域おこし協力隊員」として町が委嘱。隊員には、地域おこし支援や地域協力活動を行っていただき、その地域への定住・定着を図る取組。



相川町長に絵本を手渡した銀城さん

10/8

世界の食文化に興味を

銀城康子さん著書『絵本 世界の食事』を寄贈

鶴田町出身で長年東京で活躍され、今年町にUターンした管理栄養士の銀城康子さんが、自身の著書『絵本 世界の食事』全25巻を町に寄贈しました。

『絵本 世界の食事』は銀城さんが海外の日常の食事に興味を持ち調査してきた成果で、世界各国の食事を管理栄養士の視点で紹介するシリーズ。2020年には全国学校図書館協議会の「第22回学校図書館出版社賞 特別賞」を受賞。

銀城さんは「地域によって食べるものは違うが、必要な栄養は変わらない。伝統的な食事はその地域で生き抜く術と文化が詰まっていることを知ってほしい」と話しました。

10/17

個性豊かなりんごを収穫

拓紅園 絵・文字入りりんご収穫

妙堂崎地区の中野光彦さんの園地で、個性豊かな「絵・文字入りりんご」の収穫が行われました。

このりんごは有袋りんごの袋を剥がす際に、特殊なシールを貼ることで日光が遮られ、白く浮かび上がります。中野さんは約35年にわたり絵・文字入りりんごを生産していて、今年も約500個の絵・文字入りりんごができあがりました。

中野さんは「天候の心配もあったが、良い仕上がりになったと思う。手に入れたらしばらくは飾って、おいしく食べてほしい」と話していました。



ハロウィーン仕様の絵入りりんご



りんごの収穫体験を楽しむ児童たち

10/31

小学生がりんごを収穫 その場で味わう

鶴田小学校 りんご収穫体験

下山康祐さんの園地で、りんごの収穫体験を行われ、鶴田小学校の5年生28人が参加しました。

鶴田小学校では児童各自が学びたい分野を選択して1年を通して学ぶ取組を行っており、りんごコースでは春から農作業体験を行ってきました。

当日、子どもたちは一斉にりんごの収穫を開始し、30個あった籠はあっという間にいっぱいになりました。収穫を終えた後は自分たちで収穫したもぎたてのりんごをまるかじり。子どもたちは「とてもおいしい」や「甘い」などもぎたての味を堪能していました。



Vol.97 (筆：葛西あゆみ)

10月上旬、本年度の収穫を無事に終え、防鳥ネットの撤去や草刈りなどの後片付けもまもなく終わり、今後は出荷に向けての作業が待っています。今年のぶどうも甘くおいしく収穫の喜びを感じています。26日はツルタラボにて熱気球搭乗体験、その後富士見湖パークの秋まつりにイベントに参加。子供たちはランタン制作や、大集合したはたらくるまに乗り、一日中楽しんで頂きました。

最近私の心をくすぐる津軽弁は「かだる」と「はまる」。「関わり方」の違いが興味深いです。「かだる」は仲間に加わり一緒に行動することで、「わもかだるじゃ」（私も一緒にやるよ）。一方「はまる」はいつちよかみをたしなめる言葉で、「いいんだねなもはまねしても」（頼んでない、出しゃばるな）。ただし「はまるな」思いやりを含んだ、人情味のある注意の言葉だということに津軽弁の奥深さを感じます。



▲上空の熱気球から見たツルタラボ



▲秋まつりの仮装イベントに参加



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。